

北海道医療新聞

8月26日 1592号

2005年(平成17年)

毎週金曜日発行

年間購読料 19,000円

(前納/税・送料込)

発行所

北海道医療新聞社

〒060-0042 札幌市中央区大通西6丁目

北海道医師会館

代表 ☎(011)221-7777

FAX (011) 281-2678

取引銀行/ 北洋銀行大通支店(当座)

北海道銀行本店(当座)

<http://www.medim.co.jp>

SSI連続550例ゼロ

手術時 手洗い 水道水、アルコール使用

みやざき外科

八%。宮崎院長は「手術時
間や在院期間が短く、アル
コール併用の効果が高い」と
話している。

札幌市中央区の、みやざき外科・ヘルニアクリニック(宮崎恭介理事長・無床)は、手術時手洗いに水道水とアルコールを使用し、手術部位感染(SSI)が連続五百五十例ゼロの効果を上げた。

宮崎院長は開業準備の際に、滅菌水より水道水とアルコール消毒の術後三十日SSI発生率が低いとする海外報告に注目。滅菌水精製の設備投資や維持管理費が高額で手荒れ

の心配もあり、水道水とアルコールによる手洗いを十一年開業時から導入。当時わが国ではエビデンス未確立のため、手洗い以外はDCガイドラインに沿った対策を徹底した。

抗生剤は第一世代セフェムを術前一回のみ投与(小児未投与)、術直前に必要最低限の除毛を施行。術者と看護師は自動手洗器により手指と前腕部を水道水と液体石鹸で洗浄し、アルコール製剤が乾燥するまで繰り返し込みを計二回行い、滅菌ガウンと滅菌手袋を着用。術野をホビドンヨード消

毒後、六あき滅菌ドレープで患者を覆い、皮膚切開部は滅菌フィルム完全被膜。術後入浴はシャワーを当日、湯船は三日目から許可した。

五百五十例の平均手術時間は四十三分、日帰り退院率一〇〇%。術後一週間と四週間のSSI発生率はともにゼロだった。

SSIサーベイランス研究会によると、日本の発生率は鼠径ヘルニア修復術が一・三%、末梢血管手術二・

手術内訳と感染率

	鼠径ヘルニア 452例		下肢 腫瘍 98例	全症例 550例
	小児 38例	成人 414例		
手術時間(分)	30±10	41±11	58±19	43±15
術後在院時間 (時間)	2.8±0.6	4.0±1.1	4.9±0.9	3.9±1.2
日帰り率(%)	100	100	100	100
手術部位感染率 1/4週目(%)	0/0	0/0	0/0	0/0